

吉崎海岸の植物たち

砂浜の環境は、植物にとって厳しい場所です。

水や養分が少なく、絶えず塩水や潮風にさらされ、夏は強い日光・冬は強い北風など、どれ一つをとっても一般の植物が耐えられる環境ではありません。

こんな厳しい環境で、工夫をこらして生きぬいてきているのが海浜植物です。

近年は、都市化や開発に伴って海岸線の人工化が進み、海浜植物の残る自然海岸が急速に減少しています。四日市市でも自然海岸は、この吉崎海岸とすぐ南に位置する鈴鹿川派川河口海岸の一角を残すだけとなっています。海浜植物が残っているこの貴重な自然海岸を、皆さんの手で残していきたいものです。



吉崎海岸の植物といえは・・・

ハマヒルガオ

5月～7月。見ごろは5月始め～中ごろ

白くて強い地下茎が砂の中に伸びる。花の底にある黄色いくぼみは、蜜をためている場所。小さな虫が集まるのを観察してみよう！



準絶滅危惧種

ハマニガナ

4月～10月。見ごろは5月

葉っぱの形から、「ハマイチョウ」とも呼ばれている。



弘法大師が名前の由来

コウボウムギ

見ごろは4月。

飛んできた砂を受け止め、砂丘を作る植物。根元あたりの繊維が筆の先のように見えることから、弘法ムギと呼ばれている。

～きれいな砂浜を取り戻しましょう～ 吉崎海岸清掃活動に参加しませんか

開催日 毎月第1日曜日 8時～（1時間程度の活動と1時間程度の勉強会）

発行 楠地区まちづくり検討委員会 お問い合わせ：楠地区団体事務局 ☎059-398-3121